

# 田

(能)

シテ 木谷 哲也

## 村

ワキ 北島 公之

間 山田 讓二

大鼓 飯嶋六之佐  
小鼓 住駒 充彦

笛 片岡憲太郎

後見 藪 俊彦  
松田 若子

地謡

浅谷 之信 高橋 憲正  
山本 貢伸 広島 克栄  
大澤 永靖 高橋 右任  
田屋 邦夫 佐野 玄宜

休憩 二十分

# 水掛 聒

(狂言)

聒 清水 宗治

男 鍋島 憲  
女 若生 敏郎

後見 炭 哲男

# 大江山

(仕舞)

佐野 由於

地謡

藪 克徳  
渡邊 茂人  
高橋 憲正  
佐野 弘宜

# 胡

## 蝶

シテ 松本 博

ワキ 苗加登久治

間 荒井 亮吉

大鼓 田中  
小鼓 住駒

一義 太鼓 飯森 友春  
幸英 笛 矢郷由香子

後見 渡邊荀之助  
福岡 聡子

地謡

水口 純治 藪 克徳  
岩井 嘉樹 島村 明宏  
山崎 健 渡邊 茂人  
川島 英治 佐野 弘宜

## 能田村 (たむら)

春たけなわの弥生半ば、東国から出た都一見の旅の僧（ワキ・ワキツレ）が花の清水寺に参詣します。そこへ菘箒を持つ花守の童子（前シテ）が現れ、僧の求めに応じて坂上田村丸を願主とする清水寺草創の来歴を語り、四圍の名所を教えます。折から音羽の峰に月が出て、地主の桜を照らす値千金の春の宵となりました。千手観音の衆生済度の御誓願のありがたさは、枯れ木に花を咲かせるほどともいいます。常人ならざる気配を察して僧が童子の名を問いますと、童子はわが行く方を見よと答えて坂の上の田村堂に入ります（中入）。散る花の蔭に寝て僧が法華経を誦するうちに、輝く武者姿の男（後シテ）が現れ、田村丸を名乗って征夷の功を当寺の仏力と感謝します。その一例を挙げるならと、田村丸は鈴鹿山の悪魔退治を再現します。黒雲のごとき鬼神の群れを大悲の弓と知恵の矢で悉く討ち取りたもうた観音の力を称揚し、観音と一体になって激戦の模様を活写します。

## 狂言 水掛髻 (みずかけむこ)

隣り合う田を持つ髻と舅がいて我田引水を争います。畔を付け、畔を切るのが相手の仕業と知るまでは、顔を合わせてもにこやかに挨拶。雨乞いの踊りを話題に髻・舅らしく振る舞い、それが一変して水を争う激しさは、問題の切実さをうかがわせます。取水口を奪い合った拍子に舅に水がかかり、互いに水をかけ泥を塗り、この騒動に女が加わり、夫の指示で父の足を取り、二人して舅を倒して帰ります。祭りに呼ばぬとは舅の遠吠えです。

## 能 胡蝶 (こちょう)

吉野の奥に山居する僧（ワキ）が名所見物に花の都を訪れ、一条大宮の由緒ありげな古宮に足を踏み入れます。階の傍らに色鮮やかな梅の花の盛りを見て、声をかけて現れた女（前シテ）があり、雲の上人の嘆賞した古来の名木と教えてくれます。僧に名を問われた女は実は人間ではなく、花に戯れ花に心染む胡蝶であると打ち明けます。花に親しみながらも梅の花にだけは縁遠いことを嘆き、僧に言葉を交わして成仏を願う胡蝶は、中国・莊子の胡蝶の夢の故事や源氏物語・胡蝶の巻の六条院の舞楽に思いを馳せ、夢での再会を約束して消えます（中入）。僧は夢を頼むかいないはかない約束とは思いますが、梅の木陰で読経の声を立てていると、胡蝶の精（後シテ）が姿を現し、法華経誦誦の功力により梅の花への執着を晴らして、今は梅の花にも隔てなく戯れることができると喜びます。精は思うさま一夜を梅の花に舞い遊び、歌舞の菩薩の面影を朝霞に残して去ります。

(金沢大学人間社会学域教授 西村 聡)

次月の予定 平成三十年六月三日（日）午後一時始

(能) 西王母

(狂言) 樋の酒

(能) 忠度